

事業報告

NEC 森の人づくり講座/2007・夏

開催日:2007 年 6 月 16 日～20 日

13年という長い年月を、NECというひとつの企業に支えられてやってこられたということには大きな意義があります。今年は、「企業の CSR 活動の一環としての講座」の位置づけを明確にするにあたり、学生たちに CSR についての小講義も開くことができました。

環境教育に関心のある学生を、全国から募集しているこの講座では、社会に羽ばたいた後に各方面で環境教育のリーダーシップを発揮できる人材を育成するために、以下の点に考慮して構成をしました。

- ・前期生・後期生のつながりの中で、人の輪をどう生かすか。
- ・「森林問題」に具体的解決を試みることで、知識をどのように腑に落とすか。
- ・講座で学んだことを、企業の中でどう生かすか。

このねらいを十分に感じ、実践していける人材を養成するこの講座。A コース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾と B コース:キープ・フォレスターズスクールの2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの5日間を、以下に報告いたします。

プログラム紹介

Bコース

キープ・フォレストーズスクール

場所

山梨県北杜市高根町

●講座のねらい

- ①環境教育の意義について理解すること
- ②インタープリテーションのおもしろさやその意味を理解すること
- ③自分がどのように環境教育に関わっていきたいのかを考えるきっかけになること
- ③全国の仲間とのネットワークを作ること
- ④あなた自身のねらいを達成すること

●そのために大切にしたいこと

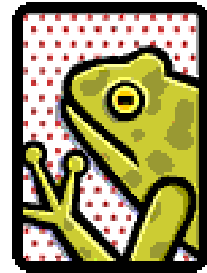
- ①体験から学ぶこと（まずは、体験することから）
- ②お互いから学ぶこと（相互啓発、相互学習、みんなが先生）
- ③楽しみながら学ぶこと（あそび心で!）

●プログラム進行表

第1日目／6月16日(土)

この日のテーマ：自然・人・環境教育に出会う

- | | |
|-------|--|
| 13:30 | 13期生プログラム開始「ふりかえりと目標の設定」 |
| 14:30 | 開講式／オリエンテーション |
| 15:00 | 講座のウォーミングアップ
環境教育プログラムの体験「参加者主体型」 |
| 16:45 | 休憩 |
| 17:00 | 目的の共有化・自己紹介 |
| 18:00 | 夕食 |
| 19:15 | <u>14期生</u> 講義：環境教育概論
<u>13期生</u> 実習：翌日の環境教育プログラム実施への準備 |
| 20:15 | 1日を整理する時間、終了 |
| 20:45 | オプション：自由交流会 |



第2日目／6月17日(日)

この日のテーマ：思いをつなぐ

07:00		14期生 環境教育プログラムの体験②「説明型・やりとり型」
		13期生 環境教育プログラムにむけての準備の続き
08:00	朝食	
09:15		環境教育プログラムの実施（13期生）&体験（14期生）
	休憩	
11:00		全員ディスカッション「日本の森を元気にする」
11:45	昼食	
12:45		14期生 講義②：環境教育概論
		13期生 プログラム実施のふりかえりとわかちあい
13:30		講義：企業におけるCSRについて
13:45		13期生クロージング
14:30		13期生をお見送り、休憩
		★★★ ここから 14期生のみ★★★
16:00		インタープリターストークショー～インタープリター編～
16:30		コミュニケーションワーク①
18:00	夕食	
19:15		インタープリターストークショー～修了生編～
19:45		環境教育プログラム体験③ 「ナイトハイク」
20:45		1日を整理する時間、終了

第3日目／6月18日(月)

この日のテーマ：コミュニケーション能力を鍛える

07:00		オプション：学生時間（自分たちのしたいことをする時間）
08:00	朝食	
09:15		やまね保護のためのきこり体験
	昼食	
14:00		やまね研究者のお話
	休憩	
15:00		コミュニケーションワーク②
16:00		コミュニケーションワーク③
	休憩	
17:15		講義：体験学習法
18:00	夕食	
19:15		環境教育プログラム実施&相互評価のオリエンテーション
19:45		1日を整理する時間、終了



第4日目／6月19日(火)

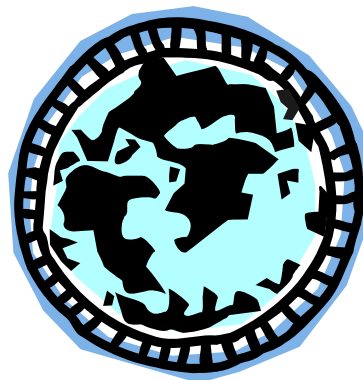
この日のテーマ：インタープリターを体験する

07:00 希望者のみプログラム準備
08:00 朝食
プログラム準備
10:00 環境教育プログラム実施&相互評価
12:00 昼食
13:15 プログラムの練り直し
14:30 講義：安全対策
15:30 学生時間
休憩
17:30 講義：環境教育概論
18:30 1日を整理する時間、情報交換会準備
19:00 夕食&交流会

第5日目／6月20日(水)

この日のテーマ：思いを次回につなげる

08:00 朝食
09:30 補いの講義、質疑応答
10:15 フリップボードディスカッション
11:15 1人になる時間
12:00 昼食
13:15 講座全体のふりかえりとわかちあい
14:00 クローシング
14:45 終了、解散





1日目：自然、人、環境教育に出会う

開校式／オリエンテーション

14期生より一足先に到着した13期生は、昨年秋の前期講座で感じたことや、気づいたことを、もう一度思い出し、今回の後期講座で14期生へ伝えたいことを宣言しあった。前回の四泊五日を過ごしてきている13期生の言葉には、どれも自信が詰まっていた。その後、14期生が到着し、参加者総勢19名で開校式が行われた。不安や緊張、自信や期待など、色々な想いの入り混じる中、2007年夏のNEC 森の人づくり講座がスタートした。



体験：講座のウォーミングアップ

まずは皆の緊張をほぐすために、外に出てウォーミングアップを行った。笹の葉の長さ競争やキャッチボールで軽く体を動かし、和気あいあいとした雰囲気をつくっていく。次に行ったネームトスでは、お互いの名前を呼びあって、少しずつ顔と名前が一致してきた様子。最後に行った三人デートでは、グループに分かれ、それぞれ好きな場所で、時間いっぱいまで話し合っていた。



実習：環境教育プログラムの体験

ウォーミングアップが終わると、今度はふくろう森へ移動し、環境教育プログラムの体験をする。鏡を使い、全員で一列になってスキヤキハイク。普段とは違った視点で森を感じた。また、森の万華鏡では、ペアで森の中から素材を集め、工夫を凝らした作品を作っていた。最後に、一筆入魂でそれぞれの今の思いを漢字一文字で表し、それを発表しあった。



目的の共有化・自己紹介

今回の講座にかける思いや、目的を共有する時間。配られたプロフィール用紙に、自分の手形をかたどり、その中に自分のねらいを書き込む。手形の外側にはねらいを阻む要素を書く。それを使って、一人三十秒での自己紹介。まだ少し緊張している様子であった。



講義①：環境教育概論(14期生)

この日行なった環境教育プログラムの意図開きから始まり、レンジャーの持ち歩いている秘密道具の紹介、インタープリテーションについての講義など、環境教育の基本を理解する時間になった。

2日目：思いをつなぐ



体験：早朝ガイドウォーク(14期生)

早朝の一時間、近くの森を歩く。清里では、この時期まだ朝晩の気温は低い。しかし、それを補う暖かい日差しと、14期生たちの活気あふれる雰囲気、初夏の朝らしい、爽やかなガイドウォークとなった。朝の清里の空気をいっばいに吸い込みながら、ウッドチップトレイルを散策した。途中の展望テラスでは、目の前に広がる牧草地と、その向こうに見られた富士山が壮観であった。



実習：環境教育プログラムの実施(13期生) & 体験(14期生)

この時間で13期生は、昨年秋の前期講座で行ったプログラムを、14期生とスタッフに向けて実施した。秋期のプログラム実施の際にもらったフィードバックを活かし、大幅な改善をされており、細部までよく練りこんでいた。「2回目だからいいものができるようにがんばろう」という意気込みと、「14期生に伝えたい」という思いが強く感じられた。そういった彼らの姿勢は14期生達にとって良い刺激になったようであった。



企業の CSR について

本講座を主催する NEC より、森本さんをお迎えし、CSR についてのお話を頂いた。NEC の CSR のフレームワーク、内容に対し、とても熱心に耳を傾けていた。



13期生クロージング

13期生はこの時間をもって本講座を修了する。フリップボードにいまの率直な気持ち、本講座でやっておいてよかったこと、やっておきたいこと、本講座を終了した後の目標を書き、全員で見せ合った。そして最後に、13期生からのメッセージがあった。「三日目からは速いので今から全力で!」、「みんなが先生」、「人を知ることは自分を知ること」など、本講座での時間を大切にしたいという思いが伝えられた。



実習:コミュニケーションワーク1

この時間からは、14期生のみとなる。室内で体を動かしながら行なうコミュニケーション実習を行った。二人一組で行なう「白菜体操」で文字通り体をほぐし、口頭で伝えられた情報のみを頼りに絵を描いてゆく「流れ星」、自由な発想で取り組む「卵の出かた実習」を行い、それぞれした。



実習:ディスカッション「日本の森を元気にする」

この時間は、「Think Globally Act Locally」の姿勢を大切にすることを学んだ。日本の森のもつプラス面、マイナス面をできるだけ多く書き出し、ホワイトボードに張りつけ、それらを分類する。そして、マイナス面を減らし、プラス面を伸ばすためにはどうすればよいのかを、グループで出し合う。今すぐできるものから、「CMを作る!」などのユニークなものまで様々な提案がされたが、最終的にその中から最も重要と思うものを5つ選び、グループごとに発表しあった。



インタープリターズトークショー 終了生編

本講座の終了生(10期生)であり、現在キープ協会の清泉寮に勤務している清水愛子さんをお迎えして、お話を頂いた。短い時間ではあったが、本講座で学んだことや、やっておけばよかったこと、現在の仕事のこと、10期生たちの現在など、講座を経験している先輩の口から語られる言葉に、皆興味深そうに耳を傾けていた。



体験:ナイトハイク

この時間は、夜の森を感じるナイトハイクに出かけた。皆かなりの期待感を持って参加している様子であった。風のほとんど吹いていない静かな夜の森へ、参加者たちもまた、ひっそりとして行った。広い草原でシートをひいて寝転び、絵本の朗読を聞く。今回は一人になる時間が20分間と長めにとられ、ここまでの講座をふり返る者、何も考えず森の音に耳を澄ませる者など、それぞれに時間をすごしていた。

3日目：コミュニケーション能力を鍛える

学生時間:自分たちのしたいことをする時間

朝7時、朝靄が残る草原で、14期生達は靴とズボンの裾を濡らしながら「ダルマさんが転んだ」の変形バージョン「ダルマさんのいちにち」をして笑い転げていた。ピタッと止まる従来型とは違って、オニの出したお題をジェスチャーで表現しなければいけないこのゲームを童心にかえて楽しむ。この遊びを通して14期生達は更に仲が良くなった。後々のふり返りでも「とても楽しかった!」「コミュニケーションプログラムに使える!」と評判は上々。体を動かしておもいっきり遊ぶことが少ない学生たちにとっては特に新鮮だったようだ。





実習:ヤマネ保護のためのきこり体験

キープ協会では、準絶滅危惧種であるヤマネを保護する活動を行っている。この日の午前中は、キープ協会の敷地内に新たに建設される、ヤマネをはじめとする樹上で生きる動物のための歩道橋(アニマルパスウェイ)の建設予定地で間伐を行った。また、間伐材を利用し、動物たちがアニマルパスウェイを利用しやすくするための誘導路を作った。間伐で森が元気になり、アニマルパスウェイで動物達の行動範囲が広がる。この作業を通して、ヤマネを守ろうとすることが、ひいては森全体を守ることに繋がるということを学んだ。



講義:ヤマネを守ることは森を守ることに繋がる

昼食をとった後はヤマネミュージアムを訪れた。ヤマネ保護に貢献したということで、館長から保護飼育中のヤマネを特別に見せてもらえることになった！本物の愛らしいヤマネを目の当たりにした後は皆熱心に館長の講義を聞き、じっくりと館内を見学して理解を深めていた。動物保護・森林保護の現場に触れて、ひとりひとり想うところがあったようだ。熱心にメモを取っていた。



コミュニケーションワーク2・3、講義「体験学習法の理解」

聞き手に徹するワークでは、普段どれだけ自分が口を挟んでいるのかを実感。好き好きゲームでは、自分をさらけ出し、相手を受け入れることの心地よさを体験。「匠の里」は、順調に進まないグループの方がむしろ大きな学びを得られるワーク。コミュニケーションの大切さ、問題を解決に導く難しさを学び、またその解決法を皆で模索し作り上げていく喜びを共有できた。また、講義では心理学の分野で扱われるジョハリの窓について学び、自分を解放することや、他者からフィードバックをもらうことの大切さを知った。

4日目： インタープリターを体験する



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価

実際にインタープリターの立場を体験することでインタープリテーションを学ぶ時間。参加者はプログラムの流れに沿って、導入、本体、まとめ、の三つのグループに分かれ、アクティビティ集から自分たちがアレンジしたアクティビティを実施する。実施中は緊張が窺えたが、参加者側にまわった時は純粹にアクティビティを楽しんでいた。実施してみて感じたことや、参加者からのフィードバックに、大きな学びがあった様子。研修室に帰ってからは各自の反省やフィードバックを基にプログラムの練り直し。あっというまにプログラムシートの余白が埋まっていった。



講義：④体験学習法&講義：安全管理

前の時間に行ったインタープリテーション体験をもとに、さらに理解を深める時間。講義では体験学習法の考え方に触れ、より効果的な学びのサイクルを学んだ。安全管理の講義では、野外で活動する際に考えられる危険要素を出しあった。出てきたものは「自然災害」、「危険な動植物」など、身体的な要素がほとんどだったが、講義の中で安全管理には身体と心の二つの側面があることを学んだ。



交流会

交流会といっても堅苦しいものではない。ただの飲み会というわけでもない。焚き火、スモーク、美味しいご飯と飲み物、上映会、ドラム缶風呂、天体観測、情報交換、熱い討論、音楽、心の底からの笑い声！

最後の夜に相応しい、清里の森ならではの濃い楽しい夜だった。環境教育という共通のキーワードを持つ、頼もしい仲間と分かち合いたい話題は途切れることなく、交流会は夜遅くまで続いた。

5日目：思いを次回につなげる



フリップボードディスカッション

今の率直な気持ち、講座で学んだこと、仲間へのメッセージを紙に書いて一斉に見せ合った。「新たな自分の発見」「コミュニケーションのすごさ」「今回学んだことをさらに伸ばす＆発見する」などの言葉があり、仲間への感謝の気持ちや激励、今後の誓いが溢れていた。締めくくりには、短いメッセージの書かれた「ことばのプレゼント」を川村講師から1つずつ受け取り、それぞれ自分に照らし合わせていた。



クロージング

各々好きな場所で講座全体をふり返った後は、いよいよクロージングの時間となった。スタッフによる生演奏付ふり返りスライドショーを見て、この五日間を再度思い出し、一人一言ずつ講座の感想を述べる。「とても充実していた」「最高に楽しかった」「自分を出せた。皆に受け入れてもらえた。皆を受け入れることが出来た」「素敵な仲間たちに出会えたことが嬉しい」・・・五日間の感動と充実感、別れを惜しむ気持ちが伝わってきた。秋にはより成長して再会しようと約束しあい、笑顔で各自のフィールドへ帰っていった。

■Bコース:キープ・フォレストーズスクール 講座終了後の受講生の感想です。

- ・ 今回の講座は、自然と向き合い、人と向き合い、自分と向き合う貴重な時間であり、様々な体験を通して感じ、考え、学び得たものがたくさんありました。私にとってこの講座に参加できたことが、環境に対する視野を広げ、人との関わりの中で自分を見つめ、なにより、これから先私が歩んで行く未来に向けての土台となり、スタート地点となったと思います。
- ・ ヒトや自然など、地球上で生きているもの同士は関わらずに生活はしてはいけません。ものとのものが関わると必ずコミュニケーションを持ちます。漠然とは考えていましたが、講座を受けて、全てのことが頭の中でパズルのようにはまっていきました。今の私は未熟で知らないこと、出来ないことが数多くあります。しかし、出来ることもあるのだと気がつきました。今周りにいてくれる人を知ること、大切にすること。私を知ってもらうこと、私を知ること。自然を知ること、共に生きること…。ヒトと関わり楽しく平和に暮らすこと。
- ・ 講座に参加する前と後とでは、確実に変わったことがあると感じています。それが何なのか。正直、まだ上手く言葉にすることはできません。つたない言葉で表現するならば、それは仲間であり、自然を身近に感じる心であり、この講座で学び取ったことをできるだけ多くの人に伝えたいという気持ちであったり…。
- ・ 『自分の“今”の素直な気持ちを大切にすること』、それが、この講座で発見した大きな学びのひとつです。環境教育の道を具体的に“どう”歩むか自分にはまだよく分かっていません。でもNEC森の人づくり講座を通じて、自分の中で環境教育活動に関わっていくのに必要なバックボーンは出来ました。5日間で学んだことを胸に刻み、これから先もお互いに情報を共有したり、意見をぶつけたり、喜怒哀楽と共に切磋琢磨しながらこの道を歩むこと。ちゃんとした『形』にはなっていませんが、これが今の自分が考えていることです。
- ・ 4泊5日の間に私が学んだ事は「コミュニケーションのすごさ」と「仲間のすばらしさ」です。環境問題を解決していく上で、人と人との歩み寄りが必要な要素であると聞きますが、今回の講座で、私は特別それを意識していたわけでもないのに、コミュニケーションについて、一番多くを感じ、学び、そして大事なものだ実感しました。

・私は今後環境教育に直接的に関わっていきたいと考えています。今回の講座でインタープリテーションの面白さや魅力、伝えることの難しさを以前よりも強く感じるようになりました。もっと深く関わたりという気持ちが心の中から湧いてきました。私がこの講座で実際に体験をして思ったのは、やはり体験活動は大事だということです。私が環境教育活動と関わっていく上で目指すものは「Think Globally Act Locally～大きく考えて足元から行動する～」講座中に知ったこの一言にすべてが集約されます。

・自分は知識だけの人間にはなりたくない。理論ばかり言って一方通行の関係に満足してしまうような人間にはなりたくない。今回自分を迎えてくれたスタッフの方々や仲間のように、初対面でも温かく寄り添ってくれる、そんな人間になりたい。環境教育活動とは人を育てる活動だと今回の講座を通して実感した。いつか、どんな職に就こうと、人と人、人と自然の架け橋となる、インタープリターのような人間になれるように、これからの環境教育活動に関わっていきたい。

・清里の自然、やまねの生態、アクティビティの数々とその背景、仲間との会話で教えてもらった情報は自分の視野を広げてくれました。講座の中で参加者に対する気配り、安全管理、コミュニケーションの取り方、言葉の効果を考えさせられ、人に影響を与える立場の責任の重さを感じました。この講座で得たものは知識と技術だけではありませんでした。人に対する心のあり方が変わりました。大学を出てからもインタープリター能力を向上させて、企業や団体の中で活かしていこうと考えています。

・今回の講座で学んだことでもっとも大きなことは、いろいろな見方の大切さであり、それをいかに引き出すかということです。それは、普段そこまで身近に接することのできない「自然」が直接自分に語りかけてくる自発的な発見もありましたが、何よりも他の人の考えを聞いての発見が大きかったです。そうした経験を踏まえて、私がいかに他人の考えを引き出し、それをみんなで共有することにより、みんなの新たな発見につなげるか、という観点に注力していきたいと思います。そして、これこそが目指すべくインタープリターなのだと思います。

・今回の森の人づくり講座では環境活動を仕事として働いている人やこれから働く人の話をたくさん聞くことができ、自分自身の将来のことを考えるヒントをたくさん得ました。就職をどうするかはまだ答えがでてないですが、どんな形であれこれからも環境教育に関わって、幸せな世の中づくりをしたいと思います。その思いを強くしてくれた、森の人づくり講座に関わっているすべての人に感謝します。